

△企業事例「DSM のサステナビリティ紹介及びカーボンプライシングの適用例」

DSM 株式会社

DSM は世界的な化学会社で「社会が持続可能でないならば、私たちは成功しているとは言えない」というスローガンを掲げ、サステナビリティこそがイノベーションであるとして経営を行ってきた。DSM の事業は石炭公社としてはじまり、基礎化学や石油化学、スペシャルティ機能化学、最近ではライフ・サイエンスやマテリアル・サイエンスの事業へと百十数年の歴史を通じて事業を大きく変遷させ、事業ポートフォリオを成長領域にシフトさせながら業績を上げてきた。近年では特に DSM の主要市場として家畜飼料用ビタミン・酵素などのニュートリション分野や車の軽量化に貢献するエンジニアリングプラスチックや太陽電池の表面反射材等のパフォーマンス・マテリアル事業に注力している。

2050 年には世界人口は 90 億人超に達すると言われる中、DSM は People、Planet、Profit の 3 つの観点からサステナビリティを捉え、事業分野と戦略を SDGs と市場のメガトレンドと密接にリンクさせている。昨年度新たに策定されたスローガンでは目的主導型企業：企業収益と社会課題解決を掲げ、企業収益と社会課題の同時解決に強い意識をもって、取り組んでいる。

DSM のサステナビリティ活動は主に Improve、Enable、Advocate の三つに分けられる。Improve はサステナビリティターゲットやライフサイクルアセスメントに基づいた環境や人に良い製品を作る等の取り組みによって自社プロセス・フットプリントの改善をしている。次に Enable では、リサイクル素材の開発や、畜産によるメタン排出低減ソリューションの提案等を通じて、製品/サービスを通じた、顧客や世の中の持続可能性への貢献を図っている。

最後に Advocate では DSM の会長である Sijbesma 氏が 2016 年に世界銀行カーボンプライシングリーダーシップの初代共同議長に任命され、カーボンプライシングの重要性を世界に向けて示し、「環境経営フォーラム」を日本で開催するなど市場変革への発信を積極的に行っている。DSM は社内でカーボンプライシングを用いて、新規ビジネスをする際に活用し、カーボンプライシングを用いた場合と用いない場合のビジネス案を比較し、意思決定に反映させている。